

## マキトラノオガニ

岡山県：準絶滅危惧

十脚目

*Pilumnopeus makianus* (Rathbun)

環境省：該当なし

ケブカガニ科

## 選定理由

生息密度が低く希少で、生息地が局限される。

## 存続を脅かす要因

海岸開発（干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

## 分布状況

県内では浅口市寄島町三郎島で1個体が確認されたのみである。

県外では和歌山県、瀬戸内海、福岡県、有明海、天草羊角湾、鹿児島県、沖縄本島大浦、西表島、台湾、中国北部から知られている。

## 生息情報

甲長14mm、甲は赤茶褐色で表面は平滑だが、短く粗い毛が生じる。鉗脚は強固で平滑、先端の指部が黒色を呈する。歩脚にも毛を具える。汽水の影響がある内湾奥潮間帯の転石地やカキ床に生息する。全国的に記録のあまり多くない種であり、岡山県でもこれまで1個体しか確認されていない。

文献番号 157, 158

(福田 宏)



## ハベケブカガニ

岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

十脚目

*Pilumnus habei* Takeda & Miyake

環境省：該当なし

ケブカガニ科

## 選定理由

生息密度が低く希少で、生息地が局限される。

## 存続を脅かす要因

海岸開発（干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

## 分布状況

県内では瀬戸内市牛窓町の岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所前及び長島で各1個体が確認されたのみである。

千葉県外房の小湊で記載されて以後、種子島で一度記録された他はほとんど知られていない種であるが、近年、香川県小豆郡土庄町中ノ島、山口県山口市阿知須でも確認されている（未発表）。

## 生息情報

甲長14mm、一見オウギガニ科の種に似る。甲は明るい赤茶褐色で、強く湾曲し、表面に毛が密生する。鉗脚は強固で大きく、先端の指部が黒色を呈する。歩脚の腕節と前節に顆粒を並べる。岡山県の2産地では潮間帯岩礁間の砂底や海藻の根元から得られているが、山口県阿知須では砂干潟で確認されている。全国的に見てもこれまで僅か数回しか記録例のない希種であるものの、岡山県周辺を精査すればさらに新産地が見出されるかもしれない。

(福田 宏)

